

# 世界はイベントでつながっている

世界の文化を知ろう!



## パンケーキ・デー

イギリスやアイルランドでは、四旬節(しじゅんせつ)の初日の前日に家族でパンケーキを食べます。四旬節の間は1日の食事の量が制限され、肉や卵、乳製品を食べることが禁じられていたことから、それらを使いいきり、パンケーキで栄養をつける、ということが起源と言われています。※四旬節とはイースターの準備期間にあたり、復活祭の46日前～前日までのことです。



## スペインの大晦日

スペインでは大晦日に、12粒のブドウを食べる習慣があります。1粒食べるごとに新年の願い事をしたり、12粒すべて食べることが出来ると新年に幸運が訪れるなどと言われています。また厄年に、家族や親族に囲まれながら「年齢の数だけ馬肉の肉片を食べる」という風習もあるようです。



## 立春

中国では肉や野菜などを包んだ春餅(チュンピン)を食べます。韓国でも昔から縁起の良い言葉を書いて門や柱に貼り付けたりする地域もあります。また、この時期は中国の旧正月である春節と重なることが多く、主に中国や台湾、香港、シンガポールや各国の中華街などで盛大に祝われます。

## サンクスギビングデー

アメリカやカナダで秋に作物の収穫を祝う感謝祭。家族で集まって七面鳥やマッシュポテト、パンプキンパイなどのごちそうを食べてお祝いします。



カナダ  
アメリカ

アイルランド  
イギリス  
スペイン

中国



## オススメ書籍

愛染園は「子育て・子育てに優しい町」「虐待ゼロのまちづくり」をめざしています。今号は、愛染園の活動が掲載されている2冊をご紹介します。

「ヤングケアラー」とは誰か

家族を“気づかう”子どもたちの孤立  
村上靖彦著 (朝日選書) ¥1,870 (税込)

小学生の15人に1人が「家族の世話」を担い、社会問題化してきた「ヤングケアラー」。メディアでは身体的な疾患や障がいをもつ家族の介護をする子どもがクローズアップされていますが、実際は極めて多様な背景があります。本書では、家族をケアする子どもたちが体験する孤立を「語り」から考えます。彼女彼らの言葉に丁寧に耳を傾けてみると、どのような「居場所」や支えを必要としているのかが見えてきます。



「子どもたちがつくる町 大阪・西成の子育て支援」  
村上靖彦著 (世界思想社) ¥2,750 (税込)

西成区の個性的な支援者とともに愛染園の保育園や児童館の活動(第2章 すき間を見つける視線「わかさ保育園(当時)」西野伸一さん)も本の中で紹介されています。

Instagram

今回は遠足や自然体験に注目!  
子どもたちの笑顔がとても素敵です☆

## びわこキャンプ(夏) いもほり(秋)

おうちの人と離れて  
みんなで1泊2日を  
過ごします。



園庭で育ったさつまいもを1,2歳児が収穫しました。



給食の先生が、ふかし芋にしてくれおやつにみんなで食べました。とても甘くてパクパク食べていました。

## みかんがり遠足

あおぞら号に乗って岸和田市まで出発~!  
たくさんあるみかんの木の中から甘いみかんを頑張って探す子どもたち。帰りには何個食べたのかをみんなで嬉しそうに話しています。



## ゆき遊び(冬)

兵庫県の六甲山でソリ滑りを楽しめます。広い雪景色を目の前に子どもたちの目がキラキラ輝き、雪だるま作りや雪合戦も盛り上がりします。



遠足はあおぞら号に乗って、色々な場所に行きます。

愛染園には、隣保事業以外に、愛染橋病院の「医療事業」、特養あいぜんなどの「介護事業」があります。これからも、それぞれの施設、それぞれの事業の強みを活かしながら、また利用者をはじめ、地域のみなさんとのつながりを大切にしながら、地域に住む全ての人々が、安心して生活していくため、私たちは何ができるのか、考え、実行できる愛染園であり続けたいと思います。



医療事業 愛染橋病院

介護事業 特養あいぜん